
岐阜県立岐阜北高等学校

学校長 高木俊明

学校住所 岐阜市則武清水1841-11

電話 058-231-6628

- 1 会議の名称 岐阜県立岐阜北高等学校評議員会（第2回）
- 2 会議の構成
- | | | |
|----|-------|-----------|
| 委員 | 浅野美代子 | いづみ第2幼稚園長 |
| | 岡田忍 | 同窓会副会長 |
| | 小林月子 | 岐阜大学名誉教授 |
| | 鈴木雅雄 | 弁護士 |
| | 谷藤邦彦 | 元PTA会長 |
- （委員名は五十音順）
- | | | |
|-----|-------|------------|
| 学校側 | 森康次 | PTA会長 |
| | 高木俊明 | 校長 |
| | 村山寛和 | 事務部長 |
| | 村橋裕之 | 教頭 |
| | 森川賢二 | 教頭 |
| | 川瀬隆 | 教務主任 |
| | 笠井寛 | 進路指導部長 |
| | 川島隆史 | 生徒指導部長 |
| | 今井健治 | 特別活動部長 |
| | 高橋淳 | 保健厚生部長 |
| | 日比野彰朗 | カリキュラム開発部長 |
- 3 会議の目的 学校運営等について、地域住民代表や関係機関等代表および企業関係者等から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、「開かれた学校づくり」「活力ある学校づくり」「規律ある学校づくり」を推進する。
- 4 会議の開催 平成31年1月16日（水） 14:00～15:45 岐阜北高等学校校長室
委員4人と学校側11人が出席
- 5 会議の概要
- (1) 学校長挨拶
 - (2) 授業参観
 - (3) 学校側説明
 - ア 生徒及び保護者対象アンケート結果
 - イ 自己評価
 - ウ 部活動の結果
 - エ 本校に関係する新聞等記事
 - (4) 本校の教育活動に対するご感想、ご提言等
 - (5) その他
 - 外構工事の進捗状況

テーマ 本校の教育活動に対するご感想、ご提言等

- 意見 1 進学重視型単位制の教育課程のコンセプトが5つあるが、その中で最も重要なものは何か。
- 学校 難関国公立大学、医学部医学科への対応である。具体的には、名古屋大学への対応を第1と考えている。
- 意見 2 進路に対して具体的な方向性を持っている生徒はどれくらいいるのか。
- 学校 半分くらいの生徒である。理系の場合は、資格取得に関係することが多いので意識は高めであるが、文系の場合、法学部以外は多くはないと考えている。
- 意見 3 アクティブ・ラーニング（以下AL）が導入され、動機付けや意識を高めるのには効果的であると思うが、授業では、時間をとられ、大変ではないかと思う。進捗には影響しないのか。
- 学校 ALは、ペアやグループで課題に取り組む際に用いている。授業の中で有効な場面で実施しているので影響はない。教科ごとに効果を考えて、バランスを考えて取り入れている。また、そのようなスキルを磨くようにしている。
- 意見 4 ルーブリック評価については、実際にどのように取り組んでいるのか。
- 学校 ルーブリック評価は、数値化しにくいものを評価していくもので、生徒が筆記した内容の点検や、プレゼンの評価など、教員間の評価のぶれをなくすのに有効である。英語では、発音、内容、アイコンタクトなど、項目ごとに3段階の評価を行っている。
- 意見 5 仕事柄、議論する機会が多くある。カリキュラム開発事業では、将来、生徒が世の中に出た時に備えて、ディベートのようなテーマを決めて論理的に議論する場を設けているのか。
- 学校 現在、英語の授業では、ペアやグループで、4時間に1回ずつディベートを行っており、生徒は熱心に取り組んでいる。
- 意見 6 高校生は、感受性が強い時期である。今、求められる力は多様化している。貧困、差別、性の多様性など、外での社会的現象に生で触れることが大切である。有名大学だから行くのではなく、こういうことをやりたい、勉強したいから行く。体が震えるような感動、若者の感動が大切。1ヶ月ぐらいどこかに行くなど、行動力をつける機会は大切である。アジアの国で自分のセンスを磨くなど、相手を知り、理解し、行動する経験を積む。知力、感性が有機的に発展していくことが、物事を解決する力となり、進路の動機づけにもなる。ALについてもALのためにやるのではなく、問題解決のためのALとするとよい。豊かな北高生に期待する。
- 意見 7 あの野球の根尾選手は、成績も大変優秀だと聞いている。彼が進路を決める際に、難関大学への進学を目指している本校の先生方なら、どのようなアドバイスをされるだろうか。これは、高校によっても違うし、価値観によることだと思うが、本人の適性を見出し、才能を引き出していくことは、どこにもない解を求めるような難しい問題だと思う。

- 意見 8 社会の変化は、10年スパンから3～5年スパンになってきている。このことを念頭に学校が教育を考えてくださっていることに感謝している。学校では、何といても現場の先生の魅力によるところが大きい。高校生ともなれば、徐々に親離れをしていく時期であるが、本校では、保護者が子供に、安心して手を放すよう言ってほしい。
- 中学校に出向いて学習を支援するスタディサポーターの活動では、生徒が自ら考えて学ぶことができた。自己肯定感、達成感を得られるよいボランティア活動であった。
- 自転車の交通指導については、本来、保護者の役目であり、家庭ですべきものだと思う。何でも学校に委ねるのはおかしいと思う。何が家庭で必要かを今一度考える必要がある。
- 本校は、進路集会なども適度に行われている。開かれた学校である。

6 会議のまとめ

第2回学校評議員会では、授業参観の後、進学重視型単位制、生徒及び保護者対象アンケート結果、各分掌の自己評価、部活動の成績、本校に関する新聞等記事、外構工事の進捗状況の説明を行った上で、本校の教育活動に対するご感想、ご提言をいただいた。

今回の貴重なご意見・ご提言を真摯に受けとめて、次年度の教育活動に取り入れるとともに、今後も様々な機会を通してご意見をいただきながら、地域の信頼に応えることのできる魅力ある学校づくりに邁進していきたい。